

日本聖公会 管区事務所だより

日本聖公会管区事務所
162-0805 東京都新宿区矢来町 65
電話 03 (5228) 3171 FAX 03 (5228) 3175
発行者 総主事 司祭 矢萩新一

「CCA 第5回総会に参加して」

—神の被造物の回復を願って—

管区事務所総主事 司祭 エツサイ 矢萩新一

「死も命も、天使も支配者も、現在のものも将来のものも、力あるものも、高いものも深いものも、他のどんな被造物も、私たちの主キリスト・イエスにある神の愛から私たちを引き離すことはできないのです。」(ローマ8:38b-39)

アジアキリスト教協議会(CCA/Christian Conference of Asia) 総会が、9月28日～10月3日の日程で、インド南部のケララ州・コッタヤムにて開催され、通訳を担ってくださったウイルソンウォーレン司祭と一緒に参加しました。東方教会系のマル・トマ教会のホールと礼拝堂を会場に、アジア各国の加盟教派の代表者や各国のキリスト教協議会(NCC)の代表者、太平洋地域や欧米のエキュメニカルパートナーら約500名が集いました。各国のNCCのメンバーの中にはアングリカン・コミュニオンのメンバーも多数関わっておられ、香港や台湾、フィリピンやミャンマーの教役者とも出会いました。

2015年以来7年ぶり(本来は5年毎)に開催された今回のテーマは、「神よ、あなたの聖霊によって私たちを新たにし、被造物を回復してください」で、世界教会協議会(WCC)総幹事による主題講演にはじまり、生態系の回復や気候変動、ジェンダー正義、寄留者の歓待など15のテーマでの分科会などもあり、神さまの被造物である人間や自然のあらゆる「いのち」の尊厳を大切にしていくために、私たちができる事について学びつつ、総会が進められました。

総会ですので、基本的に報告を聞いて承認し、様々な趣向の込められた朝夕の礼拝をささげ、ひたすらおいしいカレーを頂く毎日でしたが、日曜日には2時間ほぼ立ちっぱなしのオーソドックスの教会の礼拝に参列させていただき、くりくりとした目で様々な質問をしてくれる教会学校の子どもたちとも交わらせていただきました。総会のハンドブックには、10ページにおよぶセクシュアル・ハラスメント・ポリシーが掲載されていて、今の時代に必要な取り組みであることを再確認しました。

日本からは、在日大韓基督教会とNCCの代表者も参加され、在日大韓基督教会の鄭誌温伝道師が17名のCCA常議員の一人として選ばれました。受け入れてくださったインドNCCのみなさまや

□会議・プログラム等予定

(2023年10月25日以降・前回未掲載分)

9月

28日(木) 青年委員会 [Web]

10月

25日(水) 人権問題担当者会議 [Web]

25日(水) 日韓協働委員会 [Web]

30日(月) 資産運用規程検討タスク

フォース会議 [管区事務所]

30日(月) 宣教協議会実行委員会 [Web]

31日(火) 正義と平和委員会 [Web]

11月

6日(月) ナザレ委員会 [ナザレの家]

6日(月) いのちをみつめる祈りの集い [Web]

7日(火) 教役者遺児教育基金・建築金融資金運営委員会 [管区事務所]

14日(日) 青年委員会 [Web]

10日(金)～13日(月) 2023年宣教協議会 [清里・清泉寮]

27日(月) 正義と平和・原発問題プロジェクト会議 [Web]

27日(月) 主事会議 [管区事務所]

28日(火) 正義と平和委員会・パレスチナの学び [聖公会神学院]

12月

1日(金)～2日(土) 各教区財政担当者連絡協議会 [ナザレの家]

5日(火) 正義と平和・ジェンダープロジェクト会議 [管区事務所]

6日(水) 常議員会 [管区事務所]

7日(木) セーフ・チャーチ WG 会議 [東京教区事務所]

7日(木) 女性に対する暴力の根絶を求めて祈る礼拝 [東京教区・聖アンデレ主教座聖堂]

8日(金) ウィリアムズ主教記念基金運営委員会 [立教]

(次頁へ続く)

☆管区事務所の冬期休業

12月29日(金)～1月5日(金)までの間、冬期休業いたします。よろしくお願ひいたします。緊急の連絡は総主事まで。

CCAのスタッフのみなさまに感謝いたします。

さて、日本聖公会では、11月10日～13日に宣教協議会が予定され、「いのち尊厳かぎりないもの～となりびととなるために」というテーマのもとで、140名が清里の清泉寮に10年の実りを持ち寄り集い、社会の様々な課題に向き合いながら、宣教体制の立て直しに向けて歩み出そうとしています。グループに分かれるプログラム以外はオンラインでも配信される予定ですので、ぜひ関心をお寄せいただき、各教区や各教会での地域に根差した宣教の取り組みに向けて、意識を新たにしていきたいと思えます。

先日、ガザ地区でエルサレムおよび中東聖公会のエルサレム教区が運営する「アル・アハリ・聖公会病院」が爆撃を受け500名以上の犠牲者があったという悲しいニュースがありました。犠牲となった方々、不安の内にある方々を覚えて祈ります。武力による攻撃は憎しみと悲しみの連鎖を生み出すだけです。差別され、抑圧されているすべての人々、思わぬ災害によって被災された多くの人々の上に、神さまのお守りと祝福がありますように。そして、私たちが祈りと行動によって平和を求め、神さまの被造物である人間や自然を愛していくことができますように。

(前頁より)

- 11日(月) いのちをみつめる祈りの集い [Web]
- 16日(土) 原発のない世界を求める Zoom カフェ [Web]
- 18日(水) 日韓協働委員会 [Web]

<関係諸団体会議・他>

- 10月24日(火)～27日(金) 東アジア礼拝ネットワーク会議 (ALNEA) [ナザレの家]
- 26日(木) NCC 役員会・常議員会 [聖アンデレ教会ホール(東京)]
- 30日(月) キリスト者平和ネット運営委員会 [+Web]
- 31日(火) 狭山キリスト者前段集会 [聖アンデレ教会ホール(東京)]
- 11月9日(木)～13日(月) アジア太平洋地域神学校ネットワーク会議 [聖公会神学院]
- 12月8日(金) 日本キリスト教連合会常任委員会 [Web]

□主事会議

第 67 (定期) 総会期第5回 2023年10月13日(金)

<主な決議事項>

1. 管区事務所裏の楠の木の伐採について、メール稟議を承認した。
2. 東アジア礼拝ネットワーク (ALNEA) への補助について、研修支援資金から15万円を支出するとのメール稟議を承認した。
3. 海外出張承認について、9/4-9/20 ブラジル聖公会日本人宣教100周年シンポジウムへの小林聡司祭の出張、9/18-9/20 韓国・済州での済州友情教会聖堂聖別式および日韓協働合同会議への卓志雄司祭・上原成和司祭・黒澤圭子さんの出張、9/20-9/21 韓国・済州での日韓聖公会宣教協働40周年会場下見への卓志雄司祭の出張、10/19-10/24 香港でのCCEA主教会議への高橋宏幸主教・サイモン クレイさん(通訳)の出張を承認した。
4. 2023年度教役者給与支援金について、常議員会の承認を確認した。
5. 2023年度教区分担金について、常議員会の承認を確認した。
6. 「日本聖公会年金規約」一部改正の件につ

いて、年金委員会の草案内容を確認・文言を一部修正し、修正案を作成することとした。

7. 「ナザレの家」の聖歌に関する資料保管について、現在管区で保管している分をリスト化し、聖公会神学院管理のものと合わせ目録を作成することとした。
8. 社会事業の日(10/29)の信施奉獻先について、日本聖公会福祉連盟提案の「(福)聖ヒルダ会 軽費老人ホーム ベタニヤ・ホーム大規模改修計画のため」にささげることが承認した。

次回: 11月27日

□常議員会

第 67 (定期) 総会期第8回 2023年10月17日(火)

<主な決議事項>

1. 海外出張承認に関して、10/19-10/24 香港でのCCEA主教会議への武藤謙一首座主教の出張を承認した。
2. 管区諸委員に関して、ハラスメント防止・対策担当者を大町信也司祭に委嘱することを承認した。
3. 「世界平和統一家庭連合(旧統一協会)に對

する解散請求に関する声明」に関して、カルト問題対策連絡協議会の要請を受け、いくつかの文言修正や意見を付したうえで、加盟教派として賛同することを承認した。

次回会議：12月6日(水)、2024年2月20日(火)、4月19日(金)

□各教区

北海道

- ・第83(定期)教区会 2023年11月22日(水) 15時～11月23日(木・休) 15時 主教座聖堂(札幌キリスト教会)

北関東

- ・第91回(定期)教区会 2023年11月25日(土) 10時半～17時 志木聖母教会

東京

- ・第143(定期)教区会 2023年11月23日(木・休) 正午～17時半 聖アンデレ主教座聖堂 / 聖アンデレホール

横浜

- ・第85(定期)教区会 2023年11月23日(木・祝) 9時～16時 横浜聖アンデレ主教座聖堂および会館

大阪

- ・第131(定期)教区会 2023年11月23日(木・休) 9時～17時 主教座聖堂(川口基督教会)

□神学校

聖公会神学院

- ・諸聖徒日感謝礼拝 2023年11月1日(水) 13時半～ 聖公会神学院諸聖徒礼拝堂
司式：校長 司祭 中村邦介 説教：主教 磯 晴久(大阪教区)



†逝去者 靈魂のパラダイスにおける光明と平安を祈ります。

司祭 ヨハネ小野俊作(東北教区・退) 2023年9月28日(木) 逝去(89歳)

司祭 パウロ石井義雄(京都教区・退) 2023年10月10日(火) 逝去(92歳)

司祭 ダビデ藤井八郎(北海道教区・退) 2023年10月27日(金) 逝去(82歳)

《人事》

大阪

司祭 ダニエル山野上素充(退)

2023年9月30日付 尼崎聖ステパノ教会での第5主日囑託の任を解く。
2023年10月1日付 司祭柳時京のもと、大阪聖ヨハネ教会第1、第3、第4、第5主日囑託を委嘱する。(任期:2024年3月31日まで)

司祭 ヨハネ木村幸夫(退)

2023年10月1日付 主教アンデレ磯晴久のもと、尼崎聖ステパノ教会第1、第2、第3、第4、第5主日囑託を委嘱する。(任期:2024年3月31日まで)

九州

司祭 マグダラのマリヤ島 優子

2023年9月30日付 八幡聖オーガスチン教会の主日礼拝協力を命じる。

■お詫びと訂正

『管区事務所だより第389号』10ページ「広島平和礼拝」に参加しての執筆者である平安女学院の板花奏音さんの学年が違っていました。深くお詫びして訂正いたします。

(正) 高等学校3年 (誤) 中学校3年

2023年日本聖公会宣教協議会を前にして

<いのち 尊厳限りないもの

—となりびととなるために> in 清里

実行委員長 主教 アンデレ 磯晴久（大阪教区）

主の平和

いつも宣教協議会のことを憶え、お祈りくださいますことを心から感謝申し上げます。いよいよ宣教協議会が近づいて参りました。宣教協議会は、2023年11月10日(金)～13日(月)に清里で開催されますが、私たち実行委員は、この期間だけが宣教協議会だとは考えておりません。準備が開始された時から宣教協議会は始まっており、そして宣教協議会後も、宣教協議会は続いていくということを肝に銘じて歩んでいます。皆さまもそのことを共有してくださると大変うれしく思います。宣教協議会の実りが日本聖公会の宣教・伝道活動に寄与し、神さまの御心にかなう活動が展開されますようにお祈り致します。

<清里>

清里と聞いて、私の心にまず浮かびます聖歌は、444番です。

「山辺に向かい われ目を上ぐ
助けは いずかたより来たるか
天地の み神より
助けぞ われに来たる」

また、清里と聞いて、私の心に浮かびます聖書箇所は、詩編121篇1～2節です。「目を上げて、わたしは山々を仰ぐ。わたしの助けはどこから来るのか。わたしの助けは来る 天地を造られた主のもとから。」

清里は、宣教協議会を開催するにふさわしい場所です。

お集まりくださる皆様と一緒に、清里の山々を見つめつつ、素晴らしい自然を創造された神さまに思いを向け、神さまの御心を祈り求めたいと願っております。

さて、私は今2つのことを念頭において、宣教協議会のことを思い巡らしています。それは「清里の風」「清里の星」です。

1. 清里の風

私は清里で、どのような「風」が吹くか、とても楽しみにしています。聖霊の働きは、神さまからの「息吹き」であり、また「風」にたとえられます。主イエスは、ニコデモに言われました。「『あなたがたは新たに生まれなければならない』とあなたに言ったことに、驚いてはならない。風は思いのままに吹く。あなたはその音を聞いても、それがどこから来て、どこへ行くかを知らない。・・・」(ヨハネによる福音書3:7) 風はすべての人々に区別なく、平等に吹きます。神さまからの「風」はすべての人々に区別なく、平等に吹きます。清里での私たちの話合いや交流、行動の中に、神さまからの私たちの思いを超えた「風」が吹き、私たちの背中を押してくれるでしょう。

清里で、どのような神さまからの「風」が吹くのでしょうか。参加者の皆さまと共に楽しみにしたいと思います。そして、その「風」を多くの皆様と分かち合いたいと願っております。

2. 清里の星

先日、星の写真家の方のインタビュー記事を読みました。「撮影するのにいい場所はどこですか。」という問いに、「今は、八ヶ岳、清里です。」と答えておられました。

清里で私たちは、どのような「星」に出会おうでしょうか。「そのとき、占星術の学者たちが東の方からエルサレムに来て、言った。『ユダヤ人の王としてお生まれになった方は、どこにおられますか。わたしたちは東方でその方の星を見たので、拝みに来たのです。』」（マタイによる福音書2:1）主イエスがお生まれになった時、東方の博士たちは星に導かれてやってきました。私は、清里で私たちが、世界を覆う暗闇に輝く星に出会い、導かれることを期待しています。

宣教協議会の大きなテーマは「いのち 尊厳 限らないもの—となりびととなるために」です。「いのち」、それは最も大切なものですが、今地球上でこれほどないがしろにされているものはありません。人間の欲望が、ささやかな命を傷つけ、時に奪ってしまいます。戦争、弾圧、差別、自然破壊の道（ヘロデの道）ではなく、東方の博士たちが「別の道を通して自分たちの国へ帰って行った。」（マタイによる福音書2:12）ように、神さまの「風」に乗り、また主イエスを指し示す「星」に導かれて、私たちは、「隣人と共に歩むいのちの道」を歩み出したいと願っております。

宣教協議会のため、さらなるお祈りをよろしくお願い致します。

「祈り」（宣教協議会のためのこどものいのり）

すべてのもの つくりぬしなるかみさま
 あなたのためには、わたしたちはみな、おなじように とうといものです
 どうかわたしたちが、あなたのであわせてくださったひと すべてを
 イエスさまがなさったように、たいせつにすることができますように
 また、あなたがおつくりになったものすべてを
 かけがえのないものとして、だいじにしてゆくことができますように
 そして、わたしたちをほんとうの「へいわ」がやってくるために、
 はたらくものとしてください
 イエスさまのみなによって おいのりいたします アーメン



日韓協働合同会議を開催

2023年9月濟州島―「濟州友情教会聖別式、日韓協働合同会議、日韓聖公会宣教協働40周年記念大会現地下見」の報告

管区事務所宣教主事 司祭 ステパノ 卓 志雄

9月18日～21日日韓協働委員会のメンバー、首座主教、管区総主事・宣教主事は韓国の濟州島を訪問した。その目的は「濟州友情教会聖別式」「日韓協働合同会議」「日韓聖公会宣教協働40周年記念大会下見」のためであった。

9月19日(火)「大韓聖公会釜山教区濟州友情教会」の新礼拝堂の聖別式が行なわれた。2002年大韓聖公会が韓国宣教112周年を迎え、濟州宣教のための教会開拓を目的として朴東信司祭(現、釜山教区主教)を派遣し、韓国の南の島「濟州島」初めての教会である「濟州教会」の歴史は始まった。その後2010年、日韓聖公会主教会において「濟州教会」を日韓友情教会とするビジョンが初めて提示された。そして大韓聖公会主教会で「濟州教会」の礼拝堂建設を本格的に推進することを決議。2022年2月に土地と建物を買い入れ、教会名称も「濟州教会」から「濟州友情教会」に変更し、今回9月19日朴東信主教(釜山教区・韓日協働委員会委員長)と李京浩主教(大韓聖公会議長主教・ソウル教区)の司式によって新礼拝堂聖別式を迎えることとなった。

武藤謙一主教(日本聖公会首座主教・九州教区主教)は聖別式の説教の中で「2014年10月にここ濟州島で開催された日韓宣教協働30周年記念大会の共同声明の中で、両聖公会は『風の島を聖霊の島に』という濟州教会の宣教ビジョンを共有し、『生命(いのち)・正義・平和』を求める共同の信仰的実践を模索する。」を新たな10年間の宣教協働の課題の一つとして掲げたと強調した。そして「この実践がこのような形で一つの実りをもたらしたのですが、今日の日を迎えることができたのは、大韓聖公会の皆様のご信仰の御実践によるものです。この課題に関して日本聖公

会として十分な取り組みができなかったことを申し訳なく思います。そして大韓聖公会の皆様のご長年にわたる粘り強い熱心な祈りと奉獻、その真摯な信仰の御実践に敬意を表し、皆さんのゆえに主のみ名を賛美いたします。……神様のご栄光のために聖別される濟州友情教会が、主イエスの友と呼ばれる共同体として、多くの方々の友となり、命、正義、平和、一人ひとりの尊厳を大切に作る共同体として、『命、正義、平和』の使命を果たすことができますように、神様の祝福をお祈りいたします。そして大韓聖公会と日本聖公会とが、これからも互いに『友』と呼ぶ関係をより豊かなものにしていくことができますよう聖霊の導きをお祈りいたしましょう。」と語った。



濟州友情教会聖別式の様子

聖別式の後、食事会、記念音楽会が行なわれ、神によって与えられた喜びを濟州友情教会、釜山教区、大韓聖公会、日本聖公会の参加者がともに分かち合った。

続いて2023年第2日日韓協働合同会議が濟州友情教会内で行なわれた。まず両聖公会からの報告および「日韓聖公会宣教協働40周年

記念大会」「社会宣教ツアーの再開」「日韓青年セミナー」「女性の交流(ジェンダーに関する課題)」「セーフ チャーチ」「関東大震災100周年朝鮮・中国人虐殺について教会としてのアクション」について協議を行なった。特に日韓聖公会宣教協働40周年記念大会については、2024年10月21日(月)～24日(木)韓国済州島で日本聖公会50名、大韓聖公会30名の規模で行なうこと、そしてテーマとして「共に生きる世界―神・人間・自然との和解」、主題聖句として「神と和解させていただきなさい(Ⅱコリント 5:17-21)」について合意した。プログラムは済州4.3関連のフィールドワーク、友情教会訪問、パネルディスカッション、交流、聖書研究を予定している。

その翌日20日(水)は済州友情教会の牧師、両国の総主事・宣教主事が日韓聖公会宣教協働40周年記念大会のための現地下見を行なった。済州島のいくつかのホテルと研修施設を回って見たが、2014年10月日韓宣教協働30周年記念大会の場所であった「聖インドルリトリートの家」を有力な候補として検討していくこととなった。一般研修施設とは異なり、祈りを献げる聖堂が施設の中に複数あり、交わりと学びを深めるためには最適な場所であることを確認したからである。施設の確認後、アルトゥル飛行場の戦跡などを見学した。アルトゥル飛行場は中日戦争が勃発した際、日本が中国を爆撃するために作られた飛行場で、済州島からの南京空襲は

36回、年間600機の離着陸、投下爆弾は300トンに達し、南京の多くの市民が殺傷されたとされている。ここには日中戦争と太平洋戦争の痕跡をとどめる軍事遺跡がそっくりそのまま残っている。そして済州島民が苦痛を強いられた場所でもある。



済州友情教会聖別式後の集合写真

日韓聖公会宣教協働の40年の歴史を振り返ると、最初の10年は「相互の歴史と現実を学び、交流の基礎作りの時」、その後の10年は日韓両聖公会が「顔と顔を合わせて交流を深める時」であり、その後の10年間は「共に同じ方向に顔を向けて歩む時」である。この10年はどのような10年だったのだろうか。日韓聖公会宣教協働40周年を迎えて2024年日韓両国の聖公会は共に集まる。神・人間・自然との和解を通して「共に生きる世界」を目指したい。



左から朴東信主教(釜山教区・韓日協働委員会委員長)、李京浩主教(大韓聖公会議長主教・ソウル教区)、武藤謙一主教(日本聖公会首座主教・九州教区)

在日韓国出身教役者の集い (2023/10/9 ~ 10/12 : 弘前)

自己客観化の時間

司祭 ミカエル ^イ李 ^{サンイン}相寅 (九州教区)

「在日韓国出身教役者の集い」は、日本聖公会管区、各教区の配慮をいただき、ほぼ毎年行なわれている。日本全国にある教区の巡回、韓国出身教役者が勤める教区と教会、宣教地としての意味などを考慮して、集いの場所は役員を中心に決めることになる。2023年は10月9日～12日、東北教区の李賛照(イ・チャンヒ)司祭がいる弘前昇天教会を中心に集まることになった。

青森空港で降りて弘前行きバスに乗り、バスの中から見える風景、鈴なりのリンゴは自然の美しさと豊かさを感じさせてくれた。一方、車から降りて弘前市内を歩きながら、シャッターが下りた多くの店を目にするようになった。それを見て地域住民の悩みと労苦が感じられたりもした。

弘前昇天教会の内外観、地域紹介の冊子内容から、また学生の訪問などを見て、キリスト教、教会という異質な要素が地域の重要な象徴になっているようだった。先輩聖職者、信者が一つになって宣教し、現在も熱心に宣教しているこ

とが推察できた。韓国出身教役者と共に捧げた礼拝と祈りでも、皆の宣教の労苦や実りの上に私たちがいるということをもう一度記憶するようになった。

3泊4日の間、皆と本当に多くの話を交わした。談笑と冗談、個人と家族の近況、教会と教区の状況、主題を持った討論、協議などを熱く語り合った。母国語で会話するというだけでも楽しくて、ありがたい時間だった。

一方、私個人的には、語り合う中で自分自身を客観化して見ることができた。

韓国人として日本という環境の中で牧会と宣教をする先輩、後輩教役者の話を聞きながら自分自身を見ることができた。対話の中で私の未来、現在、過去の姿が見えたりもした。私が誤解したこと、思いもよらなかったこと、大切にしなければならぬこと、捨てるべきこと、しなければならぬことなどが見え、まるで反省と悔い改め、人生の姿勢や方向性が整理される気分だっ



た。

また、韓国から来たイ・デソン司祭（ソウル教区教務局長）、チェ・ジュンギ司祭（大韓聖公会教務院長）の出会いと話も有意義だった。

大韓聖公会が50年以上の主要な方向性、テーマとして献身してきた宣教、弱者を支える人権、民主化について、再点検することになったということだ。

その理由は果たしてこのような方向性、テーマを未来世代がどのように受け入れているのかという根本的な問いから始まったということだ。すなわち未来世代を念頭に置いた、未来世代を中心とした管区や教区の自己客観化とも言える。

それを取り組んで得られた新しい方向性、テーマが「環境と命、神の創造秩序回復」だと話した。人権と民主化は新しい方向性、テーマのもとで、一つの価値として再解釈されることを期待するということだ。

未来世代とのコミュニケーション、未来世代への宣教のために、長い間大切に守ってきた価値、業績を振り返り、修正していく大韓聖公会の姿からキリスト教の宣教が何かをもう一度学ぶことになり、宣教への私の理解を振り返る機会ともなった。

現在、日本聖公会に属して働いている韓国出身教役者は約20人である。それぞれ異なる環境でそれぞれ異なる牧会方式と宣教の方向性を持って働いている。同時に、日本という社会は韓国出身教役者にとって共通した宣教の大きな対象でもある。

毎年行なわれるこの集いを通じて、神様から授かったこのような宣教の使命をより大切に感じることができる。

もう一度、この「在日韓国出身教役者の集い」を配慮し奨励してくれる日本聖公会管区、各教区、聖職者、信徒たちに感謝する。

神よ、わたしの内に清い心を創造し／新しく確かな霊を授けてください。〈詩篇 51 編 12 節〉

原発のない世界を求め



Zoom Cafe

一緒に話し合いませんか！ 原発をなくするために

のご案内



12月16 (土) 14:00~15:30

「こどもたちと原発」

お話：司祭 古賀久幸師

(京都教区小浜聖ルカ教会牧師/聖ルカ幼稚園チャプレン・副園長)

「福井県南部若狭地方は人口13万人ほどの過疎地に14基の原発が密集している特異な地域です。原発産業はすそ野が広く、それだけの労働力を必要とします。つまり、こどもたちの親、祖父母の誰かは原発産業に関わっていると言うことです。園では原子力災害に備えて避難訓練をしていますが、保護者がこどもを迎えに来ることができない事態に対しての避難方法が示されないまま時間が経過している状況を分かち合えたらと思います。(古賀司祭の言葉)」

Zoom リンク：<https://onl.bz/UA3pSej>

ID：820 1414 1653 パスコード：822900



原発問題プロジェクトのホームページ URL：

<https://www.nskk.org/province/no-nuke-proj>



主催：日本聖公会正義と平和委員会 原発問題プロジェクト

お問い合わせ：090-1983-7244 (池住 圭)

「ブラジル聖公会を訪れて」

ーブラジル聖公会でのシンポジウムー

大阪教区 司祭 バルナバ小林 聡

○日本人宣教100年

1923年にブラジルにおける日本人宣教が開始され今年で100年目。長野県出身の伊藤八十二大執事のお働きもあり、日本人会衆を中心とした教会が設立されました。このことを記念した今年3月の式典には、武藤謙一首座主教ご夫妻が出席され、9月には、多民族宣教についてシンポジウムが開催されました。



伊藤大執事は、日本から移住して来られた方々の家を訪れ、神様がいつも共におられることを証し、共に働き心と魂の養いに尽力されました。教会は人と人をつなぐ交わり、生きる支えとなってきました。その意味で言葉はとても大切です。かつては日本語で毎週礼拝が行なわれていた教会もありましたが、サンパウロ聖ヨハネ教会では現在月1回日本語礼拝が行なわれています。2020年、サンパウロ教区日系人宣教担当の玉置幸子執事から特に日系人1世のために日本語での説教を希望される申し出があり、大阪教区の教役者を中心に毎週文書で、月1回は動画で説教をブラジルにお送りさせて頂いております。

○シンポジウム(9月7日—10日)

発題は:●日本人宣教:川野カルメン司祭(サン

パウロ教区)●日系3世として:田辺アイリーン司祭(米国聖公会から沖縄教区へ出向)●日本聖公会の物語から:小林聡司祭(大阪教区)●カナダの日系人教会:任大彬司祭(カナダ合同教会へ出向)●脱植民地教会をめざして:グスタヴォ・オリベイラ司祭(ブラジル聖公会レンフェ教区)●各地域からの難民、移住者支援と共生の報告、でした。

川野司祭は日系3世で、日系人宣教担当をしておられ、今回は伊藤八十二大執事の働きについてお話しされました。田辺司祭からは、アメリカ人でありながら外国人と見られてきたことの葛藤、そして多様な在り方が多様な視点を生むということの福音をお聞きました。任司祭からは、カナダでの日系人教会の歴史、マイノリティーの遭遇する様々な困難について伝えて頂きました。

セミナーの主題講演は「脱植民地教会をめざして」。これはブラジルが過去から現在に至るまで延々と植民地化されてきたというブラジル聖公会の認識があるからです。

この植民地化の意味については、人を奴隷化させたり、人間性を奪ったり、ある支配的な力によって人間社会がコントロールされるようなことだと説明がありました。ブラジルで過ごした約2週間、目に見える貧困と格差を目にしました。大都市にはホームレスを余儀なくさせられている人があふれ、大資本によってブラジル社会がシステムの中に組み込まれているような印象を受けました。オリベイラ司祭は、教会も植民地主義的なシステムを継承しては来なかっただろうかと問いかけながらも、イエスに起きた神の国運動の中に脱植民地化の福音があることを語っていただきました。各地域の教会活動からは、ハイチ地震の避難者、他の国や地域からの移住者や、

難民となっておられる方々への支援の報告が多数ありました。滞在中、ブラジルには多数のマイノリティーコミュニティが存在すること、日系人宣教が多民族多文化社会の中で行なわれてきたことを教えられました。

○私の発題、聖ルカ教会

私の発題は、マイノリティーの感性を通して神の愛が働くということでした。100年前、朝鮮半島から日本に留学に来ていた張準相^{チャンジュンサン}青年が、1923年関東大震災の時、朝鮮人虐殺を逃れて奈良基督教会を訪れた時、吉村牧師に命を助けられ、その後牧師として大阪教区で働き、朝鮮人伝道をされたことを紹介しました。その歴史の中から生み出されてきた聖ガブリエル教会、聖公会生野センター、博愛社こひつじ乳児園の大阪・生野地域での働きに触れ、3つの物語を紹介しました。1つ目は日本聖公会2014年総会決議「反ヘイト宣言」。2つ目は日本聖公会に連なる青年たちが難民支援「NPO法人メタノイア」を始めたこと。そして3つ目は私がチャプレンとして関わる児童養護施設博愛社の児童のエピソードで、ある韓国入司祭との出会いから、自身の在日韓国人アイデンティティーをポジティブに受け止めるに至ったお話をさせて頂きました。本名を名乗ることに抵抗を覚えさせられたり、ヘイトスピーチ、ヘイトクライムがまかり通る今の日本において、そのことの責任と課題はマジョリティーの側にあることをあらためて心に留め、発題しました。

9月17日(日) パラナ教区ロンドリーナの聖ルカ教会で日本人宣教100年記念礼拝が、パラナ教区マギダ主教司式、セルマス司祭補式で行なわれました。私たちは説教を日本からブラジルにお送りしていますが、この日はブラジルから日本に向けて送る思いで説教させて頂き、その両方の祈りがこの地球を包み込みますように祈りました。式後マナカという木を植え昼食会を催して頂き、本当に感謝のひとつきでした。

○ブラジル聖公会から受けた恵み

サンパウロ教区聖十字教会で行なわれた神学講座「聖公会のアイデンティティー」に参加しま

した。講師のエディアス司祭は、ブラジル人の多様さについても触れられ、更にブラジルにおける聖公会はマイノリティーであり、それはさながらブラジルにおける少数民族、マイノリティーの存在と重なるとお話されました。カトリック教会や、エバンジェリカル教会を見る時、ブラジル聖公会はより包括的で多様な在り方を大切にしてきたという意味で、ブラジル聖公会はマイノリティーの声そのものを生きる教会であるという印象を受けました。

ブラジル聖公会が大切にしていることの一つに、ジェンダー、セクシュアル・マイノリティーに対する意識があります。神の被造物としての人間とその多様な在り方について、過去20年間真摯な話し合いの時間が教会や教区、管区総会で持たれ、誰にとっても安心と安全と愛を感じられる教会を祈り求めてきたのです。

シンポジウムの中で、二組のカップルが、自身はセクシュアル・マイノリティーであることを告白されました。このシンポジウムの交わりが、安全で安心できるセーフチャーチ、セーフスペースであることを全員が心に留めることが出来ました。

ブラジル聖公会は、マイノリティー教会です。そのマイノリティー教会が持つ感性を通して、神が働かれていることを感じ、私は日本へと押し出されてきました。サンパウロ教区サーザル主教はじめ多くの方に感謝します。主イエスが共におられることを信じ、共にこれからも歩みたいと思います。



世界の聖公会の動向

- ☆ 西インド諸島聖公会の首座主教、奴隷制度賠償金の受け入れを表明
- ☆ 聖地における新たな軍事衝突に対応するアングリカン・コミュニオン
- ☆ 国連におけるアングリカン・コミュニオン

管区事務所渉外主査

司祭 ポール・トルハースト

○ 西インド諸島聖公会の首座主教、奴隷制度賠償金の受け入れを表明

西インド諸島聖公会のホワード・グレゴリー首座主教は、聖公会の宣教機関であるUSPG（※United Society Partners in the Gospel；英国海外福音伝道会）の声明を賞賛した。それはかつての奴隷制に対する10～15年をかけた賠償プロジェクトの一環として、バルバドスのコドリントン・トラストに700万ポンドの拠出を行うというものである。グレゴリー師は「この賠償プロジェクトを通じてUSPGとコドリントン・トラストとの歴史に真摯に向き合い、過去の痛みをケアするための再生と和解のプロセスが生まれることを望みます」と述べている。

USPGは9月8日のバルバドスでの記者会見において、「再生と和解—コドリントン賠償プロジェクト」と題する長期的なプロジェクトに取り組むことで過去の過ちに向き合っていくことを発表した。これはコドリントン・トラストおよびバルバドスの西インド諸島聖公会とのパートナーシップに基づくものである。奴隷にされた人々の子孫たちの協力のもと、①コミュニティ開発、②歴史研究と教育、③埋葬地での追悼、④家庭調査の4分野で活動を行なう。

USPG総主事であるダンカン・ドモア師は声明の中で次のように述べている。「USPGは過去の奴隷制度とのつながりを深く恥じています。単に心の中や言葉で懺悔するだけでは決して足りないとは分かっていますが、今こそ協力を得て行動

に起こさなければなりません。かつてコドリントンのプランテーション（大農園）で生まれた世代を超えたトラウマは、今も子孫の皆さんに深刻な影響を与えているのです」

USPGは長きに渡り、奴隷貿易との悪しきつながりを認識していた。USPGの旧組織は1710年、クリストファー・コドリントン卿からバルバドスの2つのプランテーションを遺贈され、1838年までの間、奴隷労働者たちによる恩恵を受けていたのである。バルバドスにおいて発表された新プロジェクトは、その恥ずべき歴史を真っ向から批判するUSPGの継続的な取り組みの一環となる。

○ 聖地における新たな軍事衝突に対応するアングリカン・コミュニオン

アングリカン・コミュニオン・オフィス総主事のアンソニー・ポググ主教は、ガザ地区周辺に攻撃が行われていることについて、以下の声明を発表した。

「イスラエルとガザの今の状況について、私は現地の皆さまのために涙し、平和を祈っています。特に住民、観光客、巡礼者など全ての民間人の安全と、あらゆる武力行為の停止を願います。そして、エルサレム教区のホサム・ナウム大主教や他のキリスト教指導者たちのためにも祈りましょう。彼らは今も人々に奉仕し、平和と和解のため働き続けているのです。私はホサム大主教と連絡を取り合っており、エルサレムで開催中である聖公会・正教会国際委員会（※ICAOTD；アン

グリカン・コミュニオンと正教会コミュニオン間における公式国際委員会)のメンバーのため、彼とそのスタッフが細心の注意を払ってくれていることに心から感謝いたします。」

聖 公会エルサレム教区はガザ地区で「アル・アハリ・聖公会病院」を運営しているが、その病院長であるスハイラ・タラジ氏は緊急の呼びかけを行なった。

「10月7日午前6時30分、ガザの人々は恐怖とともに目を覚まし、世にも恐ろしい光景を目の当たりにしました。最初の20～30分間は何が起きているのか全く理解できなかったのですが、その後公営放送で、パレスチナの武装勢力がイスラエルに向けて数千発のロケット弾を発射したことを知らされました。衝突の発端は、国境にある町でした。その後、イスラエル軍によってガザ地区の数ヶ所に報復の空爆を受け、さらにイスラエル政府はガザとパレスチナ戦闘員に対する大規模報復を宣言しました」

「状況は極めて深刻で、ガザ地区の住民の生活は脅かされています。保健局は緊急事態宣言を発し、すべての医療従事者に緊急対応を要請しました。住民の基本的な生活は完全に麻痺し、あらゆる機関や民間企業が閉鎖され、特に医療分野において大きな支障が出ています。政府系の病院は緊急対応を優先せざるを得ず、元々予定されていた手術や病気の診療は優先順位を下げざるを得ません。当院は医療を必要とするすべての人々に対し、24時間年中無休の医療サービスを提供し続けようと尽力しています」

「私たちアル・アハリ・聖公会病院は緊急会議を開き、今の状況と今後の幅広い医療提供のための計画を話し合いました。新たなスタッフを配置し、病院を24時間対応可能にしていく予定です。また当院は、増え続けるニーズに確実に対応するため、緊急対応に必要な医薬品やその他のリソースを必要としています。これは、ガザ地区の弱い立場にある人々の生活にプラスの影響を与えるアル・アハリ・聖公会病院の活動を直接支援するためであり、皆様の寛大な寄付をお願い

するものです。どうか私たちとともに、この暴力の波が治まるよう祈ってください。戦争には勝者は存在しません。すべてが敗者となるのです」

寄付は、エルサレム教区に直接銀行振込で行なうことができる。詳細はEメール (info@jdiocese.org) による問い合わせにて。

ホサム・ナウム大主教は次のように述べている。「エルサレム教区の私たち聖職者と人々の安全のため、祈りと支援の表明をありがとうございます。私たちの病院が戦乱で傷ついた人々を助けられるよう、どうかこの呼びかけをできる限り広めてください。状況は極めて深刻です。皆さんの祈りと支援に、改めて感謝いたします」

○ 国連におけるアングリカン・コミュニオン

カ ンタベリー大主教ジャスティン・ウェルビー師はニューヨークの国際連合本部を訪れた。訪問の目的は、アングリカン・コミュニオンが紛争や気候変動、移民などをめぐる問題に対し、どのように対応していくのか示すことであった。大主教は国連および加盟国と、相互に緊密な関係を築いている。移民問題や奴隷制度などの不正義に明確な見解を述べ、国連の抱える課題には前向きなアイデアを提示した。

国際連合は、各国が協働して世界の主要課題に取り組むための機関である。アングリカン・コミュニオンにはいわゆる「特別協議資格」があり、国連会議の場で発言や質問を行なう権限が与えられている。2023年3月からアングリカン・コミュニオンの国連常任代表を務めるマーサ・ジャービス氏は次のように述べている。

「私たちは世界的な議論や決定について発言できる機会をととも重視していますし、様々な危機対応においても、国連や世界諸国との関係を尊重していきます。私はジュネーブとナイロビの小さなチームで働いていますが、その役割とは紛争、気候変動、移民対応、健康、科学などの国際的な主要課題について、聖公会との橋渡しをすることです」

マーサ氏は総合的に見て、次のような理由で

国連はアングリカン・コミュニオンへ敬意を払っていると述べている。「私たちは国連で議論される問題に世界各地で直接手を差し伸べることができる、ごく限られた少ない組織です。これまで紛争、パンデミック、移民、子どもの人権問題などへの対応について、国連とは良好な関係を築いてきました。私たちがもたらす知見には、高いレベルでの信頼と価値が示されていることでしょう。」

しかしながら、国連はあくまで国家のための機関であるため、アングリカン・コミュニオンや他の宗教団体が議論に加わることにについては混乱が生じる可能性があるとも指摘されている。「けれど裏を返せば私たちの目的や神の愛について、深く分かち合う絶好のチャンスにもなります。より強い抵抗がある場合、私たちの声が届く最善のチャンスは、他教派の人々や異なる信仰を持つ人々と協働することです。それは、同様の問題に取り組んでいるときに、彼らと強いつながりを持ち、共に奉仕する心を持つことを意味します。」

マーサ氏はジャスティン大主教による国連訪問の同行を通じ、個人的な強調点をいくつか挙げた。

「まずひとつは多くの国や国連本部が、様々な問題に関係性をもつ教会から提示される洞察にどれほどの価値を置いているかを聞くことでした。ジャスティン・ウェルビー大主教とキャロラインは、私たちが知っている多くの聖公会の人々が、イエス様への信仰に触発され、勇気と知恵をもって大きな苦難の中で耐え忍んでいる声を増幅させてくれました。」

「もうひとつは、教会による新しい取り組みがいかに積極的に受け入れられているかを目の当たりにしたことです。私たちは紛争問題など平和構築のための議論に、普段とは異なるパートナーを迎え入れることで、対応を再考してきました。そして、会議の内容だけでなく、小さなことがインパクトを与え、私たちの証しとなっていることにも気づかされます。人々はジャスティン大主教の会話に見られる人間性や、会議の端々にいる人々にまであいさつをする時間を大切にしていることに気づかされるのです。」

人権活動
を支える主日

**2023.
11.26**
降臨節前主日

あなたは私の目に貴く、重んじられる。
(イザヤ書 43:4a)

日本聖公会

管 区 事 務 所
〒162-0805
東京都新宿区矢来町65番
電話 (03)5228-3171
FAX (03)5228-3175

日本聖公会

NIPPON SEI KO KAI

PROVINCIAL OFFICE
65, Yarai-cho, Shinjuku-ku
Tokyo 162-0805, Japan
Tel. 81-3-5228-3171
Fax. 81-3-5228-3175

アル・アハリ聖公会病院の爆撃に強く抗議し、イスラエルとハマスの即時停戦を求め、犠牲となった人々の魂の平安と平和のために祈りと連帯を求めます。

「わたしは神が宣言なさるのを聞きます。主は平和を宣言されます／御自分の民に、主の慈しみに生きる人々に／彼らが愚かなふるまいに戻らないように。」(詩篇 85:9)

パレスチナで Hamas とイスラエルの間で戦争が起きました。とても悲しいことです。イスラエルとパレスチナの戦いは、イスラエルがパレスチナに建国した時に始まります。第2次世界大戦中のナチス・ドイツによるユダヤ人虐殺に世界は同情し、1948年、国連はイスラエル建国を認めました。イスラエル建国では、先住民であるパレスチナ人を戦争、暴力、法律で迫害、虐待し、多くの国内難民が出ました。

その後、イスラエルは自ら生み出したパレスチナ人国内難民への圧政を強めてきました。それがパレスチナ自治区ヨルダン川西岸地区へのイスラエル人入植であり、ガザ地区を取り巻く高い隔離壁です。イスラエルによりガザ地区の住民は隔離壁の中に閉じ込められ、食料、燃料、医薬品などの搬入も制限され、外の世界と自由に往来が出来ません。隔離壁が、「天井のない監獄」だとか「世界最大の監獄」だと言われて所以です。

今、ハマスのイスラエル攻撃が起り、それに対してイスラエルからガザ地区への爆撃が繰り返されています。その中でアル・アハリ聖公会病院が爆撃され、大勢の犠牲者を出しました。アル・アハリ聖公会病院は日本聖公会も支援してきた病院です。犠牲者の中には、女性や子ども、老人など、直接に戦争に加担していない一般住民も含まれます。

イスラエルがガザ地区へ侵攻すれば、何万人もの犠牲者が出ると予想されています。10月18日には国連は安全保障会議を開き、イスラエルとハマスのガザ地区での紛争を一時停止し、ガザ地区避難民の人道支援を求める決議案の採択を求めました。しかし、イスラエル支持をしているアメリカが拒否権を行使したために採択できませんでした。本当に悲しいこと、残念なことです。

日本聖公会は、戦後50年目の1995年に宣教協議会を開き、過去の戦争に加担してきた過ちを告白し、翌年の第49(定期)総会において「聖公会の戦争責任に関する宣言」を決議しました。

以来、世界のあらゆる戦争や争いに反対し、平和を願い求めてきました。戦争で犠牲となるのは、力のない女性、子ども、老人、障害者など弱く小さくされている人たちです。イエスさまは、「わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである。」(マタイ 25:40)と仰っておられます。私たちの立ち位置は明らかです。小さく弱くされている人々の所、そこにイエスさまがおられます。その所に、私たちが心を寄せていくのです。

私たちは、アル・アハリ病院の爆撃に強く抗議し、イスラエル、ハマスの爆撃により犠牲となった人々の魂の平安を祈り、人質となっている人々の即時解放、即時停戦を求めます。私たちは連帯して戦争へ反対し、平和と正義の実現を求めて共に祈りましょう。

2023年10月20日

日本聖公会 首座主教

主教 武藤謙一

日本聖公会 正義と平和委員長 主教 上原榮正



さあ清里へ！ ～実行委員からのメッセージ～

いよいよ2023年日本聖公会宣教協議会の清里での開催（11月10日～13日）が迫ってまいりました。このたびは、各実行委員から一言、みなさまへのメッセージをお届けしたいと思います。

2020年より準備してきた宣教協議会がいよいよ目前に迫り、実行委員会の動きも佳境に入っています。ぶどうの枝分科会・協議会、アンケートなど、これまで関わったすべての方の思いを私たちの今後の宣教を考える場に連れて行きたいと思っています。清里に集われる方も、画面を通してご参加くださる方も、どうぞよろしくお願いいたします。〈赤坂聖矢(東北教区)〉

実行委員会が発足して2年10カ月、この宣教協議会が清里で参加する方だけでなく、日本聖公会に連なるより多くの人と、教会と、教区と、イエス様を中心としたぶどうの枝のようにつながることを目指して、私たちはひたすら準備を進めてきました。協議会の後、皆さまの身近な所から、新たな宣教の働きが芽生えますように。 〈司祭 島 優子(九州教区)〉

いよいよ清里に集まっての協議会（11/10～13）が目前にせまってきました。ここで分かち合われること、話し合われることを通して、神の豊かさが示され、わたしたち日本聖公会の向かってゆく方向を見据える手がかりを得ることができますように…！

〈執事 下条知加子(東京教区)〉

宣教協働区・伝道教区制が設けられた2020年10月30日からちょうど3年が経ちました。各宣教協働区では様々な協働の実りが与えられています。その素晴らしい恵みをぜひ一緒に分かち合いましょ。そして「宣教協働区アワー」では、さらに先へ進む道の手がかりが与えられる時間となることを願っています。 〈司祭 杉野達也(神戸教区)〉

これまで私たち実行委員会ではぶどうの枝である皆さんと様々な媒体を用いてつながりながら準備を進めて参りました。ぶどうの枝がさらに豊かに広がっていきますように出会いを大切にしていきたいと思っています。そして、私たち一人一人が神の国の成就へ必要な存在として神さまから招かれていることを実感し、希望を持って歩み出すことが出来る宣教協議会となりますように。 〈司祭 越山哲也(東北教区)〉

宣教協議会もいよいよ本番となります。「いのちの現場から聴く」プログラムでは、様々な宣教の現場でいのちに寄り添い、共に歩んできた方々からのお話とわかちあいがあります。清里から再び、聖公会の力強い宣教の種が、日本中に、そして世界に向けて蒔かれていきますようお願いいたします。

〈司祭 大和孝明(中部教区)〉

日本各地からさまざまな「違い」が持ち寄られる清里での宣教協議会は、さまざまな「素材」が持ち寄られる「調理場」となっていくような気がしています。一つひとつの「素材」がお互いの「旨味」を出し合って、主によって調理され(用いられ)実り豊かな「食卓」を共に分かち合ひましょう。

〈司祭 成岡宏晃(大阪教区)〉

私たちは集められます。いつもの自分の境界を越えたところに、出会いや気づき、そして希望があると信じています。私たちは招かれます。これからの教会がイエス様の働きにどのように加わっていくか話し合うために。“境界線”と“教会線”、私たちがどう越えてゆけるのか、それがこの宣教協議会のチャレンジです。

〈福澤真紀子(東京教区)〉

「実り持ち寄りブースの紹介」のプログラムでは、各教区・管区諸委員会の10年の実りが目に見えるかたちで分かち合われます。この協議会のすべてのプログラムを通して、私たちがすでに与えられている実りの豊かさに気づき、元気になり、「となりびと」とともに新しい歩みを始めることができるようになります。

〈司祭 北澤 洋(横浜教区)〉

11月10日(金)～13日(月)に、いよいよ宣教協議会のメイン・プログラムが、清里清泉寮で始まります。私たちの主イエスは、山に登られました。それは山を下るためです。山上にて神さまの御心を祈り求め、山を下り、神様の御心を人々に伝え、人々と共に神さまの御心を生きるためでした。私たちが清里の高原に集い、神さまの御心を祈り求めます。そして、私たちは高原を下り、与えられたメッセージを、広く教会、関係諸施設、地域の皆さまと分かち合い、皆さまと一緒に、神さまの御心を生きる人になりたいと願っております。

「私たちみんなの宣教協議会」と受けとめてくださると大変うれしく思います。主の導きを祈りつつ。

〈主教 磯 晴久(大阪教区) / 実行委員長〉

皆様方のこれまでのお支えとご協力に感謝いたします。どうかこの宣教協議会が無事開催されますよう、また実り多き時とされますよう、引き続きお祈りください。そして、日本各地から清里へおいでくださるみなさま、またそれぞれの場においてオンラインでご視聴くださるみなさま、どうぞよろしく願いいたします。

🌲 オンラインでの参加方法は、配布されております別紙をご参照ください 🌲



2023年日本聖公会宣教協議会 会場からの配信案内

いよいよ11月10日(金)～13日(月)、山梨県清里・清泉寮を会場に2023年宣教協議会が開催されます。

当日会場に集まれるのは各教区からの代表者、管区諸委員会・関係諸団体からの代表者のみとなりますが、本来は日本聖公会に連なる全ての方の宣教協議会であることから、ひとりでも多くの方と時間を共有したいため、4日間を通して一部プログラムを配信することとなりました。

宣教協議会はこれまでの実りを持ち寄り、これからの歩みを共有する場です。ぜひ一緒にご参加ください！

2023年日本聖公会宣教協議会 実行委員会一同

当日配信案内ページ(宣教協議会ブログ内)

右記QRコードから宣教協議会ブログの案内ページに入り、プログラムごとにYouTubeへアクセスしてご参加・ご視聴ください。
(プログラムごと配信URLが異なります)
https://2023-missionconference-nskk.blogspot.com/p/blog-page_6.html



1日目
11月10日
(金)

15:00～ 実り持ち寄りブースの紹介

前回協議会にて約束した10年の実りを持ち寄り、教区・委員会ごとブースを設置して紹介していただきます。それぞれ時間をかけてブースの準備をしてくださっています。どのような10年を歩まれているのか、必見です。

19:00～ 私たちのあゆみ～物語を聴く

沖縄・屋我地聖ルカ教会、九州・巖原聖ヨハネ教会、東北・大館聖パウロ教会の3つの教会から、それぞれが紡いできた物語を伺います。都心部でもなく、たくさんの信徒がいるわけでもない教会ですが、それぞれの大切な働きに耳を傾けられたらと思います。

21:00～ 開会礼拝

9:00 ～ 朝の礼拝

祈禱書改正委員会からメッセージをいただいた後、改訂作業中の祈禱書（試用版）に採用予定の詩編を用いておさげします。

2日目
11月11日
(土)

9:30 ～ テーマ・聖句・思いの共有

宣教協議会実行委員会から、2023年宣教協議会を準備していく中で込めてきた思いを共有します。

10:00 ～ いのちの現場から聴く、昼の祈り

いのちの現場に立たれている5名の語り手から、「となりびとと出会い、気づき、共に歩き始めた物語」を伺います。それぞれからお話を伺った後、パネル・ディスカッションの時間も持ちます。

会場では昼の祈りを挟んだ後、5つのグループに分かれて分科会を行う予定です。

21:00 ～ 分かち合いの礼拝

各教区から代表して参加される予定の青年が主体となって準備を進めている礼拝です。直前に行うバイブルシェアリングから思いを馳せながら、今ある恵み、分かち合える喜びを共有します。

3日目
11月12日
(日)

10:30 ～ 主教会からのメッセージ

前回協議会から現在までの大きな変化として「宣教協働区の設置と伝道教区制の導入」について、また今感じていること、大事にしたいことなどをインタビュー形式で主教たちから伺います。その後、宣教協働区ごとに分かれて分かち合い、情報共有の時間をもちます。

18:10 ～ 夕の祈り

私たちがこれから大切にしていこう「セーフ・チャーチ」のワーキンググループにリードしてもらい、夕の祈りをさげます。

9:00 ～ 2023年宣教協議会からの**呼びかけ作成**

宣教協議会までの歩みと4日間プログラムを通して得た恵み、課題を見つめ、今協議会からの呼びかけを作成します。会場に集った方だけのものだけでなく、全ての方と分かち合えるものができればと願っています。

4日目
11月13日
(月)

11:30 ～ 閉会聖餐式

❖ご要望にこたえて配本を早め、10月中旬配本!

聖公会手帳 2024



※写真はイメージです

2024年度教会暦
日課表を完全収録

全国の教会・伝
道所、関係諸施
設情報を網羅

★各教区事務所・教務
所協力のもとに
★日本聖公会
管区事務所責任編集

前年に続き「祈り」
のページを大幅
増補。地球環境に
関する祈りも

大型判 (A5判) 2,200円 (税込)
ポケット判 1,200円 (税込)

お求めはバイブルハウス南青山店
(☎03-3567-1995 HP: <https://www.biblehouse.jp/>)、
またはお近くの書店まで



日本聖公会管区事務所
2023年9月

📖 管区・出版物案内

・『2024年度 教会暦・日課表』

2023年10月1日発行 頒価 300円 (税込)

お求めはバイブルハウス南青山 ☎ 03-3567-1995

URL : <https://biblehouse.jp/>

または、お近くのキリスト教書店にお願いいたします。

日本聖公会管区事務所ホームページ <http://www.nskk.org/province/>

☆「管区事務所だより」についての要望・寄稿などをメール、また郵便でお寄せください。

comm-sec.po@nskk.org 広報主事(鈴木 一)宛て